

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4150180018
法人名	医療法人 清友会
事業所名	グループホーム 和泉
所在地	〒 佐賀市久保泉町大字川久保5457 (電 話) 0952-98-3192

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	〒840-0021 佐賀市鬼丸町7-18		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月27日

## 【情報提供票より】(平成 20年10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 8.7 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	34,800円 + 実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 860 円			

### (4) 利用者の概要( 3月 12 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	66 歳	最高	88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	清友病院、野口クリニック、小川歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、久保泉町の山手の集落の中にあり、周りには山や田畑が広がっている。敷地内には、法人母体の病院や老人保健施設等の併設施設が隣接しており、それぞれの機能を活かした連携が図られている。事業所内は、家庭的な設えと共に、見通しが良く、利用者の見守り支援が容易な設えになっている。職員は、利用者を人生の先達として敬い、その人らしく自由に暮らしてもらえるように、一人ひとりの気持ちや残された力を大切にしながら支援に取り組んでおり、利用者の表情も豊かである。職員の利用者への言葉かけや対応はとてもしっかりと穏やかである。事業所の玄関の前には畑もあり、野菜作りは利用者の楽しみにもなっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、「地域とのつき合い」や「同業者との交流を通じた向上」「災害対策」等への取り組みが課題に上げられていた。課題については、職員間で検討をしたり、運営推進会議でも話し合われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、会議では、事業所の状況や行事の報告を始め、サービス評価への取り組み、評価の課題、防火安全対策、高齢者福祉に関するなどが話し合われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議の折に、繰り返し声をかけ意見や要望、苦情等を聴くように心がけている。また、玄関に意見箱を設置したり、契約書や重要事項説明書に苦情受付窓口等を明示している。要望等があった場合には、速やかに対応しサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や畑の手入れ時には、地域の人と挨拶や会話を交わしている。自治会への加入等や地域の一員として行事や活動に参加をしたり、事業所を拠点とした地域住民との更なる交流を期待したい。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気、その人らしく生活ができるよう専門性の高い個別ケアを行う」を開設時からの理念としている。	○	現在の理念に加え、地域密着型サービスの役割を反映した理念作りも期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の中で話し合っ共有し、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時や畑の手入れ時等には、地域の人と挨拶や会話を交わしている。	○	運営推進会議等を活用し、地域の一員として地元の活動や地域住民との更なる交流に取り組まれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、業務への取り組みの振り返りや基本にもどる機会ととらえている。管理者は職員に前回の評価結果を伝え、改善課題についても全員で検討をしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、自治会長や地域の代表者、市の職員、利用者家族等の参加が得られている。会議では、事業所の状況や行事の報告を始め、サービス評価への取り組みや評価の課題、防火安全対策、高齢者福祉に関すること等話し合い、意見や質問も出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	隣接する法人本部が窓口となり、市や町との連携が取られている。情報伝達や相談は、法人の窓口をとおしてできる体制にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子や職員の異動については、主に面会時に報告している。また、遠方の家族や、面会の少ない家族には電話での連絡をしている。事業所内には、利用者の写真も掲示し家族に見てもらっている。現在、事業所便りの作成が検討されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の折に、繰り返し声をかけ意見や要望、苦情等を聴くように心がけている。また、玄関に意見箱を設置したり、契約書や重要事項説明書には苦情受付窓口等を明示している。要望等があった場合には、速やかに対応しサービスの向上に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の人事異動は最小限度に抑えられている。なお、職員の交代時には、引継ぎ期間をもうけ、利用者へのダメージを少なくするように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内で研修会が開かれており、参加している。また、職員には、外部研修の情報も伝えられており、可能な範囲で受講を勧めている。外部研修の受講者は、会議の折に伝達し周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の事業所とは勉強会や交流会を行っているが、法人外の事業所との交流や事業者団体等への参加には至っていない。	○	管理者や職員が地域の同業者とネットワークづくりや勉強会、相互評価などを通じて交流や連携を行えるような具体的な取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどが同じ敷地内にある併設施設からの入居であり、入居前には、繰り返し事業所に遊びに来てもらったり、事業所からも面会に出かける等、馴染んでもらえるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、常に、利用者の心の変化にも配慮しながら見守り、喜怒哀楽を共有している。また、職員は利用者との間には心のつながりがあり、利用者から成長させてもらっていることを実感している。日々の暮らしの中では、昔馴染みのしきたりや野菜の育て方等を教えてもらっている。		
、					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や家族の話から希望や意向を把握し、希望がかなうように取組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族と十分に話し合ったり、かかりつけ医や職員等から意見や情報を収集し介護計画を作成している。計画にはそれぞれの意見や希望等が反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、介護計画の遂行状況や効果等の評価を行い、実情に添った計画で支援している。また、利用者の状態に変化が生じた場合にも、家族や職員等と話しあって計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用して健康管理を行ったり、家族の状況に応じて病院受診の支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望される医療機関の受診を支援しており、協力医以外の歯科医の訪問診療も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に係る対応指針が作成されている。管理者はサービス開始時に本人や家族に対応指針を説明し、意思の確認を行っている。これまでに看取りの実績はないが、重度化された時には家族やかかりつけ医等と繰り返し話し合い、関係者全員で方針を共有しながら意向に添った支援をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先達として敬い、ゆっくりと丁寧な言葉かけをし、穏やかな対応をしている。また、個人情報の保護に関しても周知しており、記録物等の取扱いは注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、それぞれの利用者のペースと意向を大切にしながら支援している。起床や就寝時間、食事の時間や食事のペース、昼間の活動、入浴の日時等、希望に添って対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望も反映しながら作成している。職員は料理の準備や盛り付け、引き膳、食器洗い等を利用者と一緒に行っている。職員は食事の前に、献立や利用者の食事の準備への関わりを紹介し、楽しい食事になるように配慮をしている。職員は検食者のみが一緒に食事をしている。	○	共に暮らす家族の一員として、検食者以外の職員も利用者と一緒に食事が出来るような食事のあり方についての検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を基本としているが、利用者の希望に応じ、入浴が楽しいものとなるよう支援している。拒否をされるときには、無理強いをせず、誘導する職員を変えたり時間をおくなどして対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力を活かした支援に取り組んでいる。料理や食器の片付け、野菜作り、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除、ぬり絵、習字、縫い物、来訪者へのお茶出し等がなされている。また、散歩や畑の観察、読書等を楽しみごととして支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけ、草花摘み等を楽しんでもらっている。また、併設施設での行事への参加も楽しみな外出の機会になっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関は施錠されておらず、自由に出入りができる。事業所内は見通しも良く、職員は常に、目配り気配りで利用者を見守っている。利用者の外出希望時には止めることなく、さりげなく付き添って見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡網やマニュアルを整備し、毎年2回、消防署や業者の協力を得ながら、昼夜を想定した避難訓練等を実施している。	○	夜間等の職員だけの誘導に限界があることを踏まえ、近隣の人達の協力を得た訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量はその都度観察し記録している。献立は併設施設の栄養士に見てもらっており栄養バランスも確保されている。また、水分も十分に補給されている。利用者の体調や機能に応じて食物の形態にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は不快な音や光もなく、穏やかな雰囲気である。食堂や居間には、利用者が散歩時に摘んでこられた季節の草花や雛人形が飾られ、楽しい話題にも繋がっている。トイレはそれぞれの居室の間に造られており、分かりやすく安心できる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、家族に利用者の馴染みの品の持ち込みを働きかけている。それぞれの居室では、本人が使いこなされたハンドバッグや本、置き時計、植木鉢の花、箆笥、鏡、家族の写真、壁飾り等が見受けられる。		